

琉球大学学術リポジトリ

Suicidal Ideation, Suicidal Behaviors, and Attitudes Towards Suicide of Adolescents Enrolled in the Alternative Learning System in Manila, Philippines-A Mixed Methods Study

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学 公開日: 2020-07-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Crystal, Amiel M.Estrada メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/46466

(様式第5-2号)

2019年8月6日

琉球大学大学院

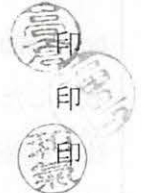
保健学研究科後期課程委員会 殿

論文審査委員

主査 氏 名 高倉 実

副査 氏 名 福島卓也

副査 氏 名 和氣則江



学位（博士）論文審査及び最終試験の終了報告書

学位（博士）の申請に対し、学位論文の審査及び最終試験を終了したので、下記のとおり報告します。

記

申請者	専攻名 保健学	氏名 Crystal Amiel M. Estrada	学籍番号	■■■■■■		
指導教員名	小林 潤					
成績評価	学位論文	⊕合格	不合格	最終試験	⊕合格	不合格
論文題目	Suicidal Ideation, Suicidal Behaviors, and Attitudes Towards Suicide of Adolescents Enrolled in the Alternative Learning System in Manila, Philippines - A Mixed Methods Study					
審査要旨（2000字以内）						
<p>本論文は、フィリピンのマニラ市のオルタナティブ・スクール（Alternative Learning System: ALS）に在籍する思春期の自殺念慮、自殺企図、自殺行動、および自殺に対する態度の実態を把握するとともに、自殺念慮・行動に対する ALS の心理社会的環境の役割を検討することを目的としている。</p> <p>本論文で使用された研究方法は、ALS 生徒 171 名を対象としたサンプリング調査による量的研究と ALS 生徒 12 名と ALS 教師 18 名を対象とした詳細面接法による質的研究の混合研究方法である。量的に測定された変数の記述統計および使用尺度の精神測定学的特性が確認された後、尺度得点について自殺念慮・行動有無の群間差が検討された。質的研究のインタビュー記録は内容分析を経て解釈された。</p> <p>量的研究の結果として、ALS 生徒の自殺念慮・行動は一般的にみられ、女子、年長者、中等学校卒者は、自殺念慮・行動をより多く報告する傾向にあり、自殺に対する態度は自殺念慮・行動と有意に</p>						

関連していた。質的研究の結果、学校の心理社会的環境として、所属感の促進、生徒の安全性の確保、教育哲学、教師と生徒の考え、学校・地域サービスの可用性の 5 テーマが抽出された。これらは自殺への進行を予防し、支援探求に影響し、メンタルヘルスを増進することを可能とすることを示唆した。得られた結果は先行研究の知見と比較して適切に考察されていた。

これまでフィリピン国の ALS 生徒の自殺念慮・行動の実態は明らかにされていなかったことから、本論文により、フィリピン国都市部の ALS 生徒を対象に自殺念慮・行動について量的・質的に記述されたことに新規性がみられる。本研究の対象は普通学校に在籍していない、いわゆる *vulnerable population* にあたる思春期であり、彼らの *well-being* については公共政策上の大きな課題となっている。したがって、彼らのメンタルヘルス問題の実態を記述したことは、フィリピン国の公衆衛生・社会福祉政策の進展に寄与するものとして社会的な意義がある。さらに、東南アジアにおける ALS の自殺研究は多くはないので、本知見は近隣諸国にとって有用な情報となることが期待できる。使用された研究方法あるいは論文内容について論理的な問題は見当たらない。

申請者は審査会における質疑に対して十分に応えており、最終試験において博士としての保健学に関する学力を有していることが確認された。

以上のことより、本審査会は、Crystal Amiel M. Estrada 氏の学位論文および最終試験を合格とする。